

寄稿



高く評価できる 緻密な函館市調査

函館市はさる3月29日に新幹線の函館駅乗入れに関する調査結果を発表した。選挙公約の柱としていた大泉潤市長は、記者会見にて「整備費160億円規模で実現可能」とし、JR北海道副社長と道副知事へ調査結果を報告に訪れた。

市ホームページに掲載の報告書260頁と概要版49シートでは、現状の運行と施設やミニ新幹線の前例を

入念かつ正確に調査分析し、ダイヤ案、工事手順、整備費、収支等を具体的に示している。

鉄道計画の調査の中には、鉄道の専門的知見を欠くと言わざるを得ないものもある中、今回の報告書は高く評価できる。

冒頭に謳う「新幹線等の

新幹線乗入れ 函館-札幌59分、 札幌、東京とも直通を 30分おきに

交通コンサルタント 阿部等



函館乗入れは札幌から8本、東京から5本のみ（市発表より）

乗入れ実現は、函館市の活性化の起爆剤となり、観光客が増加し地域経済全体を押し上げ、市民の意識も変わり、さらなるまちの活性化、イメージアップにつながる」に全面的に賛成だ。しかし、市調査の本命と思われるケース3でも、函館乗入れは札幌から8本、東京から5本のみだ。

具体的なダイヤ案も示され、札幌直通は5時間空く時間帯もあり、東京直通は終日ほぼ3時間おきだ。

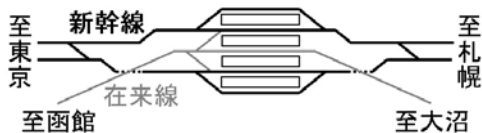
残念ながら、せっかく直通しても観光にもビジネスにも使い勝手が悪い。

本記事はぜひとも大泉市長にもお読み願いたく、市長も想定外の本当に函館の明るい未来を開く新幹線函館乗入れ方を提案する。

未来のため新幹線 計画全体見直しを

連載「北海道の鉄道を活かそう！」第11回（24年3月号）に書いたように、北海道新幹線の現在の計画による札幌駅の位置や各駅の配線（線路とホームの配置等）では便利なダイヤを組めない。

トンネル工事難航で札幌延伸が数年遅れる中、計画全体を見直したい。札幌は、現計画駅を札幌東とし現駅との2駅体制とする。新幹



新函館北斗は、函館乗入れができ、かつ乗換え全てを便利にできる配線に

線と在来線各方面を対面乗換えてできる配線とし、短時間で接続するダイヤとする。新幹線の速達が各停を超越す駅を長万部から新函館北斗に改め、新函館北斗は図の配線に改める。

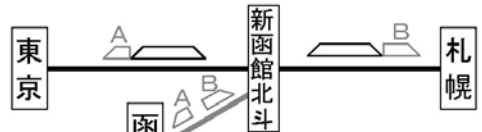
連載第2回（23年6月号）に書いた貨物新幹線は、北海道のためにぜひとも実現したい。道内一本州の物流を画期的に改善するとともに、共用走行区間の速度制限を解除できる。新函館北斗までの早期実

現により、新函館北斗以南の貨物列車がなくなり、工事間合が大幅拡大され、工事効率を大幅向上できる。

JR北海道は先に発表したグループ中期計画2026にて「時速360kmの実現を追求」とした。大宮―札幌の全区間での時速360km走行により、東京―札幌3時間44分、新函館北斗―札幌42分にできる。

2方面の全列車を函館乗り入れに

札幌・東京方面とも速達全てを函館乗入れにしたい。上図のように、下り方向は、東京から本編成+A付属編成が出發し、新函館北斗にて函館から先着のB付属編成に連結する。乗降終了後、B付属編成+本編成は札幌へ、A付属編成は函館へ同時に出発する。上り方向はその逆とする。



高速走行の騒音対策に長大な流線形。付属編成の高速走行しない先頭は流線形を最小に



共用走行区間の速度制限なし
大宮以北の最高360km/hに

札幌59分、函館―東京3時間17分とできる。

連載第11回に、30分サイクルで、1サイクルに旅客速達、各停2本（内1本は倶知安―札幌）、貨物速達、各停の計5本、1時間に10往復の提案を示した。函館から札幌・東京直通とも終日30分おきということだ。

七飯は上り線のみを、単線のまま三線軌条化する。乗入れ列車同士は途中で運行できず、本提案の札幌・東京直通とも30分おき運行はできない。

函館の、北海道の百年先を見通そう

連載第7回（23年11月号）にて、いさりび鉄道の有効な利用促進策として、市街地が広がる上磯までの高頻度化と多駅化作を提案した。函館本線沿いも、函館か

ら新函館北斗まで市街地と、交通が便利になれば開発余地の大きい平地が広がる。せつかくやるなら、札幌・東京とのアクセスを大幅改善するとともに、地域の交通も大幅改善したい。

全区間を複線化し、さらに駅を1kmおきに設置し、都市鉄道として機能するよう高頻度運行とする。

新函館北斗までの貨物新幹線の早期実現で、五稜郭―新函館北斗は三線軌条でなく標準軌が得策だ。いさりび鉄道が乗入れる函館―五稜郭は三線軌条とする。工事の段取りとして、区間毎に単線運行として昼間間合を確保し、昼間施工を基本として整備費縮減と工期短縮を図る。

して、国費も積極的に投じて実行する価値は高い。と書くとき必ず「人口減の時代に無駄な投資」との反対論が出よう。

社会保障人口問題研究所（社人研）のニュースが繰返され、マスコミや政治家・行政関係者を含む日本人のほぼ全員が人口減は決定事項と考えているが、それは誤解だ。

函館は札幌より雪が少なく、道北より暖かく、首都圏より涼しく、平地が広がり、とめない将来性を持つ。交通インフラ整備が地域を活性化し人口増となることは歴史が証明済みだ。函館にて再度証明したい。